

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和5(2023)年  
11月号

通巻639号  
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

★発行日 令和5年11月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)45-1192  
★印刷 大倭印刷 監修  
★定価 1部 300円  
年間購読料3,500円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



舞鶴富士こと建部山

藤本宏秋さん撮影(文・4頁)

**再録** 平成2(1990)年5月号『おおやまと』より

## 日本のお役目について～外から日本を考える～(下)

日本山・寺沢潤世上人との対談 法主 矢追日聖(満78歳)

対談「日本のお役目について」も最終回となりました。たいそうな見出しではありますが、海の波のようにすぐに崩れていくものではなく、海底の水のように少しずつ確実に動いていくものがあるのもいいのではないかと思います。敢えてこんな見出しを付けました。

対談の自身が、どれだけ皆さんに伝えられたか不安ではありますが、全3号を続けて読んで頂きたいと思います。

(編集部)

### 出家とSUNNY

法主 お上人さんは、幾つ位からこの道に入られたんですか。

寺沢 私は能登の生まれですが、東京に生まれて、70年安保前後から東京で一応大学にも1年席を置いていました。その頃の大学紛争を目のあたりにして、新卒の反戦デーもありましたしね。もろにそういった時代の中をくぐっています。そんな時代の中で、本当に社会を変えていくことを口角泡をとばして討論したりゲバ棒振るったりというのは、どうしても絶望しました。悩んだんですよ。やはり人の心の問題、いわば霊の世界と見えますか、目に見えない世界から人間が本当は変わっていくためにはどうしたらいいのか、そういうことだったと思います。

このままこういう生活をしていて、学位を取ってただ就職して、それで理想の世界が築けるんだろうかと真剣に悩み

ましてね、夢の中で。

その夢を見た日に、安房(※現鴨川市)の清澄寺に、私のお師匠様が来られまして、私が出家、得度させて頂きたいとお願ひしたら、その日のうちに得度して頂きました。

法主 そうですか、私もあそこに行きました。

寺沢 初めて師匠に会ったのは17歳の時なんですよ。その時からこの方に付いて行くこうとは密かに思ってたんですが、まだ高校生でしたし……。

法主 やっぱり生まれられた時にこういう宿命は持って来るんやけれども、時が来ると本当の動きというのが出て来るんですね。

だから同じ平和運動でも、色んな型の人があつていいんですよ。表で積極的に動くような型の人もなけりゃいかんし、また私らのような縁の下の舞いをする者もなけりゃいかず、色んなものが総合して初めて物事出来てくるんですね。

日本山はズいぶん供養塔を建ててますね、大変な仕事やと思いますわ。

寺沢 あれもやはり経済面なんかは、ズいぶん苦労するんですよ。

法主 托鉢でもらったお金で建ててはるんですね。

寺沢 そうです。お坊さんになつたら何をするかと思つていたら、お金集めでした。だから日本でも建築工事をやりましたし、インドでもやりました。イギリスでもやりましたしね。自分達の手で建てるわけです。

法主 けれどもあんたらはえらい、私らはそんな真似、ようせんもの。

あなたも一人で外国へ行つたりして、雲水みたいに動いてはるやろ。その信念がえらいなと思うんです。そういうことは、勉強して出来るものは違ひますよ。

日蓮の御遺文をなんぼ読んだかて、法華経を何べん読んだかて、そんな真似は出来ませんで。それを実行してはるんやから尊い人やなあとと思う。

寺沢 ヨーロッパあたりでやっていましてね、不思議なんですよ。日本はまだ仏教を知ってますし、お坊さんというものに対してどう接するかということ、ちゃんとある程度風習のようになってますよ。ところがヨーロッパは、全然そういう習慣のない所です。

お金も何もなくて、どこにも住む所も無い自分が、身一つをポーンとそういう所に投げ入れたんですよ。そういう時、しみじみと人の情けというのか、喰わせて頂くというお慈悲を感じます。仏教でもなく信者でもないんですがねえ。

法主 日本なら仏教国やから、お坊さんいうたらだいたい理解しますが、ヨーロッパあたりに行つたら、それは通用せんわな。

インドなんかは、殆どヒンズーですか。

寺沢 そうです。インドは仏教が全滅しましてね。日蓮聖人の一つの大きな予言の中には、太陽が東から上がつて西へ行くように、最後に日本のものとなつた仏教が、日本からもう一度インドへ帰るとあり、そういう意味で私共はインドへ行くことも力を入れまして。

法主 そういうようなことがどこかに書いてたな。東から西へ向いて逆に流れて行くんやと。

今度日本は日本の仏教が向こうに行くんやから、日本精神、日本の伝統というか、それを加味した仏教ということやね。

寺沢 そうです。

同席女性 野宿をなさつたことはありますか、そんな時、恐いということはありませんか？

寺沢 たしかにそう思いますね。しかし、私が出家する時には、お寺に入ろうとは思ひませんでし

た。お坊さんの修行につくために出家したんじゃない、家を出て所有物を捨てて、社会の束縛を全部捨てて、百パーセント自由の身になって、自分の命を自由に捧げられる身になるのが出家だったんです。

だから今までこうして来られたのは全部お慈悲によるわけで、何も求めたりしませんし、何もありません。

## 団体我をなくす、和して同ぜず

法主 口で立派なことを言う人は世間でさらにありますが、実際に出来る人はたいしたもんですよ。今の日本で、立派なお寺で座っておるお坊さん

なんか、たいして本当に言う出家さんとは違ひ。皆、企業家と同じやもの。けど、あれだけ大きな寺を持つたら、そうなるのかねえ。

寺沢 本当に落とし穴だと思ふんですね。気を付けないと、と思ひます。せつかく菩提心を起こして出家しながら、また財産を管理するようになってしまえば……。とても陥りやすいと思ひます。

法主 もう宗教団体が企業化しているから。けど今の時代にこんな奇特な方もおられるんやから、世の中は結構やな。

編集部 人が団体を作ると、色々の社会運動の団体同士でもお互いに対立することが多いですね。

法主 そんな色んな種類の人間がいていいんやけれど、どこかでつなぐところがなければね。一つ一つ個性があるけれども、それをずうつとどこかでつないでいる、と。

要するに「和して同ぜず」と言うんですね。これは、ええ言葉やね。誰が言うたのか知らんけど、達観した人の言葉ですわね。(※『論語』にある孔子の言葉)

自分は自分なりの個性でやっていく、それでいて和すということが難しいんやね。皆、一方に入り込んでかぶれてしまう。

いつも朝この前で、色んな種類の野鳥が遊んでいきます。あれがほんまの和して同ぜずやと思う。その鳥、その鳥の個性はそのまま生かして、みんな同じ一つの地域の中で生活しておるんやもの。小鳥はめつたに鶉の真似せんやろうしね。

人間もお互いがそうあってほしいんやけどね。自分で一つの思想を作ってしまったら、じきに排他的に考える癖があるわな、日本人は。政治家を見て一緒やしね。

寺沢 良く出れば忠誠心なんです、悪く出ると盲目的な団体我に、引きずられるだけになりますし。

法主 まあ団体で一番いやらしいのは宗教団体やと思うねん。あんたらそう思わへんか。宗教団体いうたら宗派が違ったらまるでもう仇(なま)みたいや。みんなが仲良うせんならんように教育されてるのに、自分の宗派に入らん人はみんな仇になってしまうんや。妙やなあ。

わしの所に、入信して1年も経たんような若い者が、宗祖の教義を振り回して来たこともあったしなあ。あべこべに宗教ってどんなんか分かってんのかと、説教してやったけどね。盲目信仰というのはほんまに勇敢や。

寺沢 えらい勇氣のある人やったんですね。

法主 けどまあ人間は洗脳したら、あない変化するんやね。恐ろしいなと思う。

そやから宗教団体で結束したらうるさいと思うんやわなあ。昔、織田信長でも石山の本願寺で手を焼いてんからね。あんなのは相手の信長の方が武力でやってきたんやから、宗教団体というても信念やし、まだ良い方やけど。

石垣 宗教団体って本当にベルリンの壁を心の中にしっかり持ってる人達ですね。

法主 わしはねえ、宗教団体は必要やろうけども、我のない宗教団体になってほしいと思うんや。同じ信仰している者同士やったら、宗派教派が違ってね、なんで仲良う出来へんのかね。日本人はそれが出来ませんなあ。

## 日本のお役目

石垣 でも大分変わってきていると思うんですよ。それはやっぱり時代だと思っんです。寺沢さんみたいに、殆ど20年日本から出ておられる方がいる時代になり、また地球そのものが、本当に困難な時代になっていて、そういう狭い我が国のような世界では、解決できないことに気が付いてきていますから、もうちょつとなんじやないかという気がしますけれども……。

法主 早うそうなつてくれたら結構やけどね。

寺沢 日本人が一番せせこましいところがありますねえ。

法主 けど日本人の動きを見ておったら、これは自惚れでも何でもないと思うんやけれども、こんな小さい国やのに経済大国だとかね、やっぱりまあ何か力があるんやね、どこかに。

聖徳太子やとか日蓮やとか、先覚者がそう言うてくれているんやからね、精神的に恵まれた豊かな国に、日本がまず先になつてね、その余波を、東から西へとグルリに及ぼしていくというようにならないといけないと私も思うんやけどね。

現代でも、戦争でああして取けても、経済的にはこれだけのし上がってる国やしね。

寺沢 たいへんな力量があるんでしようね。

法主 原始仏教は西から東へ来たけれども、日本

に入って浄化されて、日の本からまた西へ流れて行くと、日蓮がおっしゃってるし、聖徳太子でも日出ずるところの国だと言われてる。

寺沢 すごい自覚ですよ。

法主 国粹的なものだけども、やっぱりそれがないといかんのやね。世界平和の根本は、日本人がやらないといかん、と。

何も宗教やとか信仰の世界やなしに、日本人全体の根本になくはならないものやと思う。だから世界の人が日本へ出てきて何かを得るところがあつて、それを自分の国に持って帰って、お互いに平和になっていくような、そういう日本になつてほしい。

経済界ではその指導はちよつと難しいわな。そうすると、宗教の世界がそれを担当して、精神的には動かないといかんのやけどな。

## 平和運動の源流にさかのぼる

法主 大倭でも、世界の人が寄つて来るような相というものは、たくさん出るんですよ。ただ霊的な相というのは時間が無いんでね、千年向こうのことかも分かりませんが。

人間というのは、それを早くとらえたいと思うので、物事は誤解があるんやけどね。

大倭というのは長曾根の本拠やから、歴史の還元性が知らんけれども、世界の人が出て来るような相があるんですよ。

皇室をね、奈良に持つてこいと言つような人が霊界の中でおるんですよ。永年、天皇は京都にいはつたから京都でもいいんやけども、やっぱり日本のシンボルやから奈良に来るべきだと。

天皇がどんな人間であつてもええんやと、「すめらみこと」の資格さえ持つて人間であれば

いいと、そんなことを霊界人は言いませんね。寺沢 ああそうですか。今後どうなるんでしょう。法主 天皇は奈良へ持ってこいと、大倭のこの神さん、特に長曾根彦なんかはその説やね。霊界ではということだけれども、もしそういうように時代が変わってくれば、日本がやはり平和の拠点になってくるんじゃないかと思えますけれどもね。

寺沢 江戸城は、きれいな所とは思いませんわねえ。武力支配専門の建物でしょう。まつりごとをする場所としてはどうも……。

法主 そりゃそうですよね、闘争の場所やわね。長曾根一族は、元からヤマトにおった地の人間や。そこへニギハヤヒが出て来た、また神武も出て来たということやろうね。

(※参考資料・野草社刊『やわらぎの黙示』123頁、「日本精神の源流 長曾根邑のすめらみこと」。同『ながそねの息吹』253頁、「日本民族太古のふるさと 長曾根の国を偲ぶ」など)

神武天皇もヤマトに入って来た人ですし、神話に出てくるニギハヤヒも、古典では天の磐船で生駒へ天下ったと書いているけど、堅いクスノキの丸太船で瀬戸内海を通って生駒の山へ登って来たということやわね。

天もアマなら、海もアマですからね。海から来たというのが天下る、天から下って来たとして解釈してしまう。

天孫民族というのは名前そのものが天から下ってきたという民族でしょ。海を渡って来た人だという言い伝えだし、それはやっぱり日本から言うたら外国から来た人だと理解できる。だから日本の古代人の殆どは渡来人やと思う。

寺沢 天つ神と言われる人は皆？  
法主 大体そうだと思います。神話や伝説を、我

々にしてみれば系統立てて歴史的に考えたいと思えうけれども、私はそんなもの、まあどっちでもいい。神武天皇の時に都は大和の橿原ということになっていくけれども、私が見ておいたら、もう少し南の御所の柏原という所だったりするしね。私の話は間違いじみた話が多いんですが、ここ大倭には、ニギハヤヒの霊体もおるし、長曾根彦の霊体もおります。

色んな種類の人が出て来て、自分自身が訓練されておるわけや。

そこで一番大事なことは、腹の立てん人間になることやわ。誰かて生まれつき喜怒哀楽の動物やから、感情を持つているけど、腹の立てないものや。腹の立つような要素は多分に持っているとしても、解釈の仕様によって腹の立たんように理解できるんやね。それは何かということ、それぞれ自分で考えたらいんやけれども、そんなところからいかなければならない。

やっぱり肉体を持った人間の心に感化されて、霊界人が鎮まるんやから、我々から言うて形ある方を大事にしないと、霊界人と仲良う交流もできない。こつちから仕向けていくと、向こうの方が浄化してくる。

また向こうの方が先に動いてきて、こつちが逆に良うなっていくことになるように、ちょうどシューティングゲームみたいなもんやわ。これが本当の人間としての祈りやと思う。これが私の言う平和運動ですんねん。

もつと源流にさかのぼっていくと、報本反始のその心になるということが、平和の根本やと思えます。宇宙の大本命体という一つのものがあって、地球も星も太陽も、みんなこの中にある。それらを動かしている力というものが、それが大親さんだ

ものね。その一部を我々も授かっている。その大親さんに心をもどすということが一番大切や。そうすると霊界人も、肉体を持って一応生まれ死んでる人やから、我々とも交流できるし、自他共に救われるということになるんやね。

だから太鼓を打って歩く時も、その念を持って歩いたらいいと思います。

その人その人なりのご使命というものの、いわゆる一大事の因縁があるんやから、その自分の使命感でみんなが動いてくれるようになったら、世の中は本当に平和になってくるんやろうけれどね。そういう心を植えつける仕事もまた必要です。

寺沢 今日はどうもありがとうございます。

文責・編集部

## 表紙写真について

### 舞鶴湾と建部山

京都府宮津市 藤本宏秋

舞鶴市の中央部・五老岳展望台から西の方向に建部山がある。明治30年、舞鶴軍港の建設と同時進行で、その軍港を守る砲台が、湾口の岬、市内への進入路を見下ろす山頂に築かれた。そのひとつ建部山堡壘砲台跡(写真)は、「天空の城ラピュタ」のように植物に覆われ自然に還りつつある。



今も舞鶴湾には海上自衛隊のイージス艦や護衛艦が停泊している。世界情勢が混沌とする中、いつの日か、灰色の艦隊が美しい色に彩られ、大砲からは火花が打ち上がるような平和な世界がくることを祈らずにはいられない。

じんずうりきによせ  
「神通力如是」の真意をさぐる

第二十八回

大倭教の源流にさかのぼって

今回の原文は前回の昭和16年11月21日午前10時の続きであり、ごく短いものですが、神語りの不思議さが強く感じられる部分でもあります。

例えば唐突に昭和天皇が登場しますが、当時昭和天皇は霊界ではなく現界で存命であるので、彼の本霊がこの場に現れて思いを語っているとも解釈できます。また、「松平、百武、近衛、東條、射殺」とありますが、現実には誰も射殺されていないのです。霊界でそうした気が動いたのではないかと想像せざるをえません。霊界の動きは複雑微妙でとらえがたいものがあります。

原文

十一月二十一日、午前十時半、於鳥見庄山  
(前回続き)

両手ヲツキ

畏クモ一天萬乗ノ大君、コノ倭姫處遠クヘダツレド、大倭日高見国鷄杜ニ於テ  
① 神神ノ御加護ヲウケ、八百萬余ノ神等ノ詔、天津御祖、奇稲田姫命ノ神勅、慎ミテ御傳ヘ申シ奉ル。

「我日本ハ悪魔ノ手ノ中ニ入りシゾ。グ  
ルリ八方皆悪魔。皇孫ヨ、コノ悪魔切開  
カンニハ、真ノ正法妙法立テ、皇孫親カ

ラ大倭日高見国鷄杜ニテ真ノ題目トナヘ  
ラレヨ。危機迫レリ、我が日本ハ火ノ海  
ニ化ス。コレヲ救フニハ真ノ正法妙法唱  
ヘルノ外ニ道ハ無カル可シ」

「吾レハ、皇孫ナリ。

有難キ神ノカズノ言葉、吾レ真ノ  
題目唱ヘ申サン、南無妙法蓮華經。

御製

一億ノ民ノ心ヲ思ヘバ、吾胸サクル思  
ゾカシ。民ヨユルセヨ。一億民ヨ、後ニ  
真ノ妙法唱ヘル者集ヒテ吾レヲ守ル、  
ア一有難タヤ、嬉シヤナ。今日此ノ日、  
晴レル思ガ致シタゾヨ。

雲晴レテ 朝日ノ昇ル心地シテ

我レ今日ノ日ホド 嬉シキ日ゾナキ」

「吾レハ、建速素戔嗚ノ。

④ 愈々時機来タレリ。真ノ妙法トナヘル  
時、吾レ皇孫ノミ側ニ侍リ護リ申サム」

「吾レハ、奇稲田姫。

愈々時機来タレリ。吾レ世ニ出ル時、  
大国主、ヨク承ハレ。吾レ世ニ出ん為、

倭姫、中将姫ト生ヲカヘテ、今亦大国主  
ソチガコノ日本ヲ立直ス為、八紘<sup>世界</sup>一宇ヲ  
立テ直ス為、真ノ妙法唱ヘル為世ニ出セ  
シゾ。吾レ其レヲ助ケン為ソチノ妻トナ  
リ陰ナガラ助ケ申サム。吾ガ背君ハ皇孫  
ノ為、吾レハ大国主ソチノ側ニテ……

此時ヲ一真ノ妙法、国ノ立直シヲスル時  
一ハズセバ外ニナシ。吾レ世ニ出ン為、  
真ノ妙法トナヘサス為、埋モレ玉ヘル皇  
孫等モ共々吾レト世ニ出デ玉フ。ソチニ  
ハ大ナル使命ガアルゾ。ソノ役目ハアン  
ジル事ナカレ、諸天善神ノ加護ガアルゾ  
ヨ」

実相 東京、修羅ノ巻、火炎ノ相。

「松平、百武、近衛、東條、射殺」ト字  
ニテ現ハレ「パン」ト音響ガアリ。(午  
後七時半)

註釈

①詔と勅

「詔」の字は臨時の大事に用い、「勅」は尋常の小事に用いる。(『日本国語大辞典』による)「詔」シヨウ。みことのり。つける。みちび

く。

「勅」チヨク。いましめる。みことのり。た  
だす。『新漢語林』による)

## ②皇孫(スミミマ)

神通力如是第五回(令和2年1月号)の註釈  
文⑤で、皇孫とは奇稲田姫の子孫と説明して  
いるが、ここではその子孫の一人としての昭和天  
皇のことを指している。

## ③御製

天皇の作った詩文・和歌。古くは、他の皇族  
の場合にも言った。『広辞苑』による)

## ④愈々時機来タレリ

時機とは、日米開戦前のこの最悪な時をあら  
わす「点」ではなく、それから開戦、戦争、終  
戦、そして大倭教立教開宣へと続く一連の流れ  
の「線」を指すものと思われる。この一連の動  
きを通じて、新しい真の妙法、国の立て直しを  
する時が訪れるのだらう。

## ⑤倭姫、中将姫ト生ヲカヘテ

本連載の第二十回(令和4年7月号)の「関  
連系図でも示したように奇稲田姫、倭姫、中将  
姫、矢追妙月とつながる霊統のことを語ってい  
る。霊統でつながっているそれぞれの霊界人  
(矢追妙月は、この時は現界人であるが)が同  
じ神語りの場に立ち会い語り合っている霊界の  
不可思議で複雑な姿に注目したい。

## ⑥松平 恒雄(まつだいら・つねお)

旧字体・恒  
雄、1877年4月17日〜1949年11月14日  
日本の外交官、政治家。外務次官、駐英大使、  
駐米大使、宮内大臣、初代参議院議長を歴任し  
た。位階・勲等は従一位・勲一等。

ロンドン海軍軍縮会議首席全権を経験するな  
ど、幣原喜重郎と並ぶ親英米派外交官として知  
られるようになる。

宮内大臣として9年3か月にわたり在職した  
が、第二次世界大戦中の1945年(昭和20年)  
にアメリカ軍による5月25日の山手大空襲で明  
治宮殿を焼失した責任を負って辞任した。

1949年(昭和24年)11月14日午後5時25  
分、心臓麻痺のため東京都品川区荏原七丁目5  
24番地の自宅で急死した。享年73(満72歳没)。

## ⑦百武 三郎(ひやくたけ・さぶろう)

1872  
年6月3日〜1963年10月30日

日本の海軍軍人、海軍大将、侍従長。

1936年から1944年まで侍従長として  
昭和天皇に仕え、辞職後は1946年まで枢密  
顧問官であった。百武は侍従長であった鈴木貫  
太郎が二・二六事件で襲撃されたため選ばれた  
後任で、伝統的に侍従武官長を歴任する陸軍に  
対する牽制のために、海軍予備役大将の中から  
推薦された。

三郎が侍従長在任中に記した『百武三郎日記』  
と、三郎に関連する『百武三郎関係資料』は、  
2014年に発表された『昭和天皇実録』の編  
纂資料として採用され、注目されている。

(※松平恒雄・百武三郎についての資料はウイ  
キペディアから昭和天皇に関するところを中心  
に転記しました)

## ⑧近衛 文麿(このえ・ふみまろ)

1891年10  
月12日〜1945年12月16日

昭和前期の政治家。東京都出身。公爵近衛篤  
磨の長男。京大卒。一九一六年(大正五年)か  
ら貴族院議員。一九年のパリ講和会議に随員と  
して参加。三一年(昭和六年)貴族院副議長、  
三三年同議長となり、首相候補と目されるよう  
になった。

三七年(昭和二年)六月、第一次近衛内閣  
を組織。翌月、盧溝橋事件が勃発して始まった

日中戦争は和平交渉に失敗して泥沼化した。四  
〇年に第二次近衛内閣を組織して、新体制運動  
を展開、「革新」政策を実施した。対外的には  
日独伊三国同盟を締結して「南進」政策をとっ  
た。

四一年七月、対米調整に反対する松岡洋右外  
相を放逐するため総辞職し第三次近衛内閣を組  
織。しかし南部仏印進駐により日米交渉を破局  
に陥れ、外交と開戦の二者択一を迫られて一〇  
月に総辞職。敗戦後、戦犯指定をうけ、自決。

(山川出版社『日本史人物辞典』による)

## ⑨東條 英機(とうじょう・ひでき)

1884年  
12月30日〜1948年12月23日

昭和期の軍人・政治家。東京都出身。

陸軍士官学校(十七期)・陸軍大学校卒。満  
州事变頃から統制派の有力メンバーとして頭角  
を現し、関東憲兵隊司令官・同参謀長・陸軍次  
官などを歴任。第二・三次近衛内閣では陸相を  
務め、中国からの撤兵反対論を唱え、対米交渉  
で妥協を排した。一九四一年(昭和十六年)一  
〇月大命により現役陸相のまま組閣、対米開  
戦の決定を下した。国内の戦時動員体制を強化  
し、参謀総長も併任したが、四四年七月サイパ  
ン島陥落を機に総辞職。敗戦後、戦争犯罪人と  
して極東国際軍事裁判でA級戦犯として起訴さ  
れ、有罪の判決をうけ刑死。

(山川出版社『日本史人物辞典』による)

## 現代語訳

倭姫、両手をつけて

「畏くも一天万乗の大君、この倭姫は遠く離れた場所におりますが、大倭日高見国鶏社におきまして、神々の御加護をいただき数多の高級霊人の

皆様の詔、天津御祖、奇稲田姫の御神勅を慎んでお伝え申し上げます。

『私達の日本は悪魔の手の中に入ってしまった。ぐるり八方は皆悪魔がいます。天皇よ、この悪魔共の罠を切り開くには、真の正法妙法を立てて、天皇親から大倭日高見国の鶏杜（大倭神宮）において真の題目をお唱え下さい。危機はせまっています。私達の日本は火の海となってしまう。これを救うのには、真の正法妙法を唱える以外、道はないのです』

スメミマ「私は奇稲田姫命からつながる子孫の昭和天皇です。

ありがたい神の数々の御言葉をいただき私は真の題目を唱えましょう。南無妙法蓮華経。

#### (天皇の詩歌)

一億の国民の心を思えば、私の胸は裂ける様な思いである。国民よ許しておくれ。一億の国民よ、私の後に真の妙法を唱える者が集まって私を守ってくれる。あー有り難いことだ、今日というこの日は心の晴れる思いがしました。

雲晴れて 朝日の昇る心地して

我れ今日の日ほど 嬉しき日ぞなき

建速素戔嗚「私は建速素戔嗚ノ。

いよいよ時機到り、真の妙法を唱える時になり、私は昭和天皇の側においてお守りする」

奇稲田姫「私は奇稲田姫。

いよいよ時機が来ました。私が世に出る時です。大國主（日聖）、よく聞きなさい。私が世に出る為に、倭姫、中将姫と転生をしました。そして今又、大國主あなたがこの日本を立て直す為、世界を立て直す為、真の妙法を唱える為に世に出て来

たのですよ。私はそれを助ける為にあなたの妻となつて陰ながらお助けします。私の夫（建速素戔嗚命）は昭和天皇の為に、私は大國主あなたの側らにいて……この時を―真の妙法、国の立て直しする時―（この時機を）はずせば他にはないのです。私が世に出る為、真の妙法唱えさす為、世に埋もれておられる私の天皇達も一緒に成つて私と共に世に出てこられます。あなたには大いなる使命があるのです。その役目は心配することはありません。諸天善神の加護があるのです」

実 相 東京修羅の巷となる、火災の相、「松平、百武、近衛、東條、射殺」と字にて現れ「パン」と音響があった。（午後7時半）

※英国のジャーナリスト L・モズレー『天皇ヒロヒト』毎日新聞社（高田市太郎・訳）より

#### 大詔のかけの憂鬱

天皇が宣戦の詔勅に御璽を捺し、大詔は十二月八日（一九四一年）午前十一時四十分が発せられた。真珠湾における大勝利の報はずでに八方に広がり、新聞の号外は街々を走っていた。「国民は戦勝に酔っていた」と木戸は書いている。宣戦の詔勅は、天皇の側近たちが草案を作り、御璽を戴くために天皇に提出されたもので、天皇のご批判を仰ぐためのものではなかったし、天皇も別段批判らしい批判はされなかったが、一カ所だけぜひ挿入してほしいと命じ、みずから一文を認められた。それは、

「今や不幸ニシテ米英兩國ト鬪端ヲ開クニ至ル洵ニ己ムヲ得サルモノアリ豈朕力志ナラムヤ」

というもので、これは、天皇が、宣戦布告は内閣が決定したものであって、自分の決定ではないと

いうことを、わざわざ示そうとされたもののようにみえる。木戸内府は、宣戦の大詔が換発されたすぐあとで天皇に拝謁したが、そのときの模様についてこう書いている。「国運を賭しての戦争に入るに当たっても、恐れながら、聖上のご態度は誠に自若としていささかのご動揺を拝せざりしは真に有難き極みなりき」

天皇は―少なくとも木戸に対しては―このような事態になったことについての心痛を隠さず、また米國への最後通告でヘマをしでかしたことを知っていて怒りと同時に、屈辱すら感じられている様子だった。天皇の昔からの友邦である英国に宣戦し、とくに英王室を敵とすることは、「胸のはり裂けるような」思いであった。

しかし天皇が挿入されたこの文章は、後になって注意をひいているけれども、当時の日本の国民は別に気にもとめなかった。彼らがもつとも心を打たれたのは、日本が辛抱強く交渉に努めたのに、米英兩國は少しも交譲の精神を示さなかったというくらいであった。これ以上我慢をすれば国家の存立そのものが危うくなるという個所で国民は何度もうなずいたものである。詔勅は次のように述べている。

「斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ関スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ帰シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衛ノ為蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

皇祖祖宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有厭ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス」

（本の裏側に昭和四十一年七月十三日「法主求之」の自筆あり）

# あじさい日誌

10月8日 大倭会主催の祓会。  
 10月14日 午後6時から大倭会館で大倭町自治会役員会。  
 10月15日 大倭神宮月次祭。  
 10月22日 午後2時から大倭会館において故溝口ツヤ子さんの五十日祭。祭典後、ツヤ子さんの希望だったとことで、大倭墓地にある大倭邑人のお墓「大倭邑人鎮魂比室城」に、大勢の皆さんに見送られ納骨されました。  
 10月23日 大倭大本宮月次祭。この日の法話は昭和41年10月23日月次祭より、令和4年10月号『おおやまと』に「自分の心は自分が救う」弾力性のある心になる」として掲載分。  
 10月25日 夕方前、雷鳴が近づきつつある時、奥津斎庭の「龍神さんの寝床」に敷く新藁が届けられました。  
 11月5日 第1日曜日午前9時から大倭墓地のお掃除。  
 11月6日 大倭神宮月次祭。雨のため社務所で行われました。夜、大倭会館で邑倭の会。  
 10月28〜29日 「交流の家・秋のフェスティバル」として北海道「笹の墓標展示館」巡回展示／番匠健一氏講演(地域社会学、平和学)／アパラチア伝承音楽やフオークシンガー中川五郎のコンサートが行われました。



大倭安宿苑では10月25日 新入職員研修で紫陽花邑内も歩いて回りました。(菅原園)

10月20日 遊戯会としてシャボン玉的当てを行いました。(須加宮寮)  
 特に変わらなでした。(長曾根寮)  
 10月23・27日(二・テイ)今週は運動会で、全員が参加しました。

10月27・30日(特養)紅葉見学を兼ねた外気浴を行いました。(茂毛路園)  
 10月31日 ハロウィンのおやつ時、職員が殺人鬼風の仮装。(八重垣園) 相変わらずです。

▼北海道小樽市 『おおやまと』10月号の「九人の乙女の碑」、

私がNITT在勤中も、現役社員が毎年慰霊祭に行っていました。▼奈良県橿原市 浅井克明

元北海道民として、杉本一家の道中記を今回も楽しく読ませていただきました。私の母とその姉妹(叔母)たちは若かりし頃、まさにタラバガニ缶詰工場で働いていたそう。また、母が生まれる以前、漁師の祖父は一時樺太で暮らしていたとか、北海道の歴史そのまんまな一家です。▼新潟県佐渡市 大滝哲也

私は1972〜75年まで、父親の勤務の関係で中東レバノン共和国の首都ベイルートに住んでいました。74年の空爆の際には13歳で、自宅から7kmほど離れたベイルート空港近くの難民キャンプが爆撃を受けた時の地震のような振動と恐怖を今も忘れません。学校の運動会の練習をしている時に近くの山からアメリカ製の迷彩色の戦闘機が超低空で2機出て来て、校舎に逃げ込んだのも覚えています。その後、高空にソ連製の銀色の細長い、隣国シリアからの戦闘機が2機現れました。

## 日聖祭(案内) 令和5年12月23日(土)

大倭八十年 元旦  
 法主日聖師の御誕生を記念する祭典

○午後1時半、法主様の奥津城に参拝。  
 午後2時より大倭大本宮拝殿において日聖祭が執り行われます。

お願い  
 今になってもコロナ・インフルエンザの勢いは予断を許しません。引き続き、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

●恒例の直会演芸会は、今年から行われなくなりました。

ないためだったのださそう。ガザ地区という狭い土地の中の200万もの人々が、今後どうなるのがとても気になります。(省略あり)

## あんない

\*金鶏祭(大倭神宮)  
 12月4日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

『やわらぎの黙示』の「日本精神の源流―長曾根邑のすめらみこと」等を読んだり、聖歌「くこのもと」を歌う時、改めて「和の光」に思いを致しましょう。  
 \*月次祭(大倭神宮)  
 12月6日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催祓会  
 12月10日(日) 午前9時より「掃除みそぎ」として、大倭紫陽花邑境内の大掃除です。昼食は用意されず。  
 これに先立ち8時より大倭墓地の大掃除が行われます。  
 \*月次祭(大倭神宮)  
 12月15日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

\*日聖祭(大本宮拝殿)  
 12月23日(土) 大倭元旦。  
 上の「案内」をご覧ください。  
 \*大倭神宮境内・周辺大掃除  
 12月24日(日) 午前9時より。有志の皆さんはご参加下さい。昼食は用意されず。

12月24日(日) 午前9時より。有志の皆さんはご参加下さい。昼食は用意されず。